

## 感染症情報 5月15日～21日

府下小児科200療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	1572例(堺市	79例)
②溶連菌感染症	627例(堺市	50例)
③手足口病	414例(堺市	18例)
④咽頭結膜熱	159例(堺市	8例)
⑤突発性発疹	116例(堺市	7例)

府下インフルエンザ定点307医療機関(堺市29)から

インフルエンザ	137例(堺市	9例)
---------	---------	-----

が報告された。

感染症報告数は前週から6.7%増の3,208件であった。報告の第1位は感染性胃腸炎で以下、溶連菌感染症、手足口病、咽頭結膜熱、突発性発疹の順であった。

1位の感染性胃腸炎は府下で前週比1%増、堺市では前週比11%増であった。2位の溶連菌感染症は府下で前週比12%増、堺市で67%増であった。手足口病が府下で前週比59%増、堺市では前週15例→今回18例であった。咽頭結膜熱が府下では前週比1%増、堺市で前週12例→今回8例であった。当科周囲でも溶連菌感染症が増えてきた感がある。

インフルエンザは府下では前週比33%減の137例が報告され、堺市では前週15例→今回9例の一桁になった。

麻疹や風疹の報告はなかった。